

発行：はつらつ編集局
発行日：平成24年2月1日
発行人：吉田 秀明
編集人：はつらつ編集委員
お問い合わせ：0135-23-3126

はつらつ

Vol.92

研修医リレーコラム44

「正しい傷の処置方」

雪降り積もるここ余市では、転倒して怪我をされ病院を受診する方が少なくありません。今回は怪我の中でも切り傷や擦り傷について取り上げたいと思います。擦り傷や切り傷のことを医学用語で挫創（ざそう）と言いますが、打撃などの外力により組織が挫滅し皮膚が開く傷のことを指します。特徴としては出血がみられ、皮膚が開き外界と交通しているため感染症のリスクを伴うことです。

受診される方で多いのが、何もせずそのまま来られる方です。受傷して何もせずに放置していると、細菌が傷口からどんどん広がる可能性があります。細菌の増殖スピードは皆さんが想像する以上に早く、傷によっては数時間放置しただけで手足を切断しなくてはならない状態に陥る場合もあります。細菌は土などの外界由来のものもありますが、もともと皮膚についているブドウ球菌などの細菌も侮れません。いずれにしても、よほど大量に出血して救急要請が必要な場合を別として、挫創に対しては**まず水道水で良いので水かぬるま湯でよく創部を洗い流して下さい**。市販の消毒薬をぬって来られる方もいますが、消毒薬よりも大量の水道水でよく洗い流すほうがはるかに効果的です。少なくとも5分以上洗浄し土や砂などの異物を洗い流して、病院を受診してください。



ここで特に気を付けて頂きたい傷をいくつか挙げておきます。まず動物に噛まれた場合や、人間に噛まれた場合です。（殴った手が相手の歯で切れた場合も含まれます）人や動物の口腔内は雑菌が多くとても不潔なので、そのような傷は感染症の可能性がかなり高くなります。その他に棘が深く刺さった場合、錆びている鉄などで深く刺した場合なども同様に感染症のリスクが高いため必ず病院を受診してください。

砂などの異物が洗い流しても上手く取れない場合は、病院で麻酔をかけてブラシなどで除去しますので、異物が上手く取れない旨を伝えて下さい。砂などをそのまま放置してしまうと刺青の様に残ってしまうので、初期に取り除く必要があります。最後に最近メディアでも取り上げられている傷を湿潤環境にする治療法に関する注意事項です。ラップ療法ともいわれ、傷を乾かさずに湿潤にして治す方法があります。結論から言うと、自分で判断せずに医療機関を受診して医師と相談して下さい。確かに正しく施行すれば効果的な治療法なのですが、一歩間違えれば嫌気性菌などの細菌を増殖させ、創部の感染を助長しかねません。

これからしばらく寒い日が続きますが、天候が悪い日は無理をせず怪我をしないように気を付けてください。もし怪我をしたら**消毒よりもまず大量の水で創部を洗い流して**医療機関を受診して下さい。 **手稲溪仁会病院 PGY2 鈴木 明世**



新春書き初め会

平成二十四年一月四日「第一回新春書き初め会」を行いました。参加者二十名程度でしたが、今年度の目標や手本を参考に各自自由に筆をはしらせました。一文字にこだわり何度も書き直す方や、好きな文字を次々と書く方など、各々の個性がでました。

半紙や筆も様々なサイズを準備しましたが、やはり真つ白で大きな半紙に、大筆をはしらせることが感動的でした。

来年は是非とも多くの方に参加していただき、日頃の思いを書き綴って欲しいものです。

皆さんのご意見を参考にしながら、毎年恒例行事になっていければ良いと思っています。

外来看護師
工藤 和美



救急件数 (1月)

外来受診245件 うち入院37件
救急車来院53件 うち入院28件